



都志見新聞

(医)医誠会都志見病院
http://tsushimi.jp

発行部数 500部
発行月 1, 4, 7, 10月
発行人 都志見病院
広報委員会

-シリーズ- “がん”について知っておこう 『肺がん』



肺がんは平成30年の死亡数で、男52,400人、女21,922人。がんの中では男では断然の1位、女では大腸に次いで2位です。但し、これを各疾患の年齢構成で調整した年齢調整死亡率でみると下図のように前世紀末をピークとして、緩やかに減少しています。これはもともと発症年齢が高いことがありますが、危険因子として食生活によるものが無く、喫煙や生活、労働環境に影響される吸入性の疾患～閉塞性肺疾患、間質性肺炎、アスベストなど～であるということが影響していると思われます。近年になって、肺がんを意識する、しないに関わらず、これらの危険因子に暴露する環境が減ってきており、肺がんの危険因子に

暴露していない高齢者が増えていくと、死亡数、年齢調整死亡率は胃や肝臓などに減少していくかも知れません。事実平成30年の死亡数は前年を千人ほど下回っています。社会の変化が一次予防に期せずして貢献しているところに肺がん診断に携わってきたものには面白く思います。

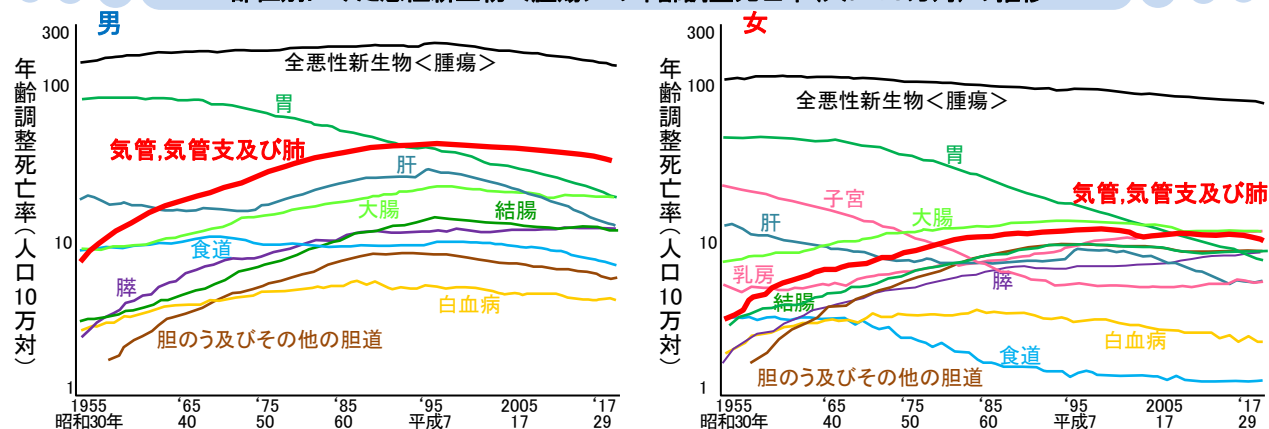
とはいえ、昭和生まれのわれわれは-この文を読んでいる人の多くは-社会情勢の副産物的な一次予防の恩恵を受けることなく、齢を重ねてしまっています。そうすると早期発見で二次予防！ですが、ほかの発生数の多いがんと比べるとあまり医学の発展の恩恵を受けていないのが痛いところで、まず胸部X線単純写真。肺がんに関するどの本-本自体が少ないのですが-みてもこれしかありません。幸い結核予防法のおかげで胸部X線写真は国内で広く普及しています。がんの検出感度は60～80%。要精密検査となったら胸部CT。感度は93～94%。さらに先に挙げた危険因子に該当する人は喀痰細胞診も併せて受けてください。高危険因子者に多く、X線写真が苦手とする、肺門部-心臓や太い血管に近いところ-の肺がんには有効です。

低線量によるCT検診が一部自治体で実験的におこなわれています。予算と人材面がクリアできれば有効ですが、放射線被ばくの危険性がクリアできたという報告は未だありません。もう少し様子見が良いかと思います。

最後に肺がん固有の症状はありません。早期発見に有効な腫瘍マーカーもありません。年一回の検診。要精査は必ず受ける。現状ではこれが最良です。

理事長 都志見睦生

部位別にみた悪性新生物＜腫瘍＞の年齢調整死亡率(人口10万対)の推移



資料 厚生労働省「人口動態統計」



リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2019 やまぐち

都志見病院は毎年、リレー・フォー・ライフ・ジャパンにチームで参加しています。
都志見病院はがん患者さんやそのご家族に寄り添い支援してまいります。





地域連携室の紹介



地域連携室は現在、看護師2名・社会福祉士4名・事務員1名の計7名を配置し、医療の連携（前方支援・後方支援）及び医療福祉の相談を主業務として様々な業務（図）を行っております。

かかりつけ医や他医療機関との円滑で細やかな連携を図り、患者さまに安心と安全な医療をスムーズに提供できるように日々努めております。また、患者様やご家族が抱える様々な問題や不安に対しては、医療ソーシャルワーカー（MSW）が相談に応じております。退院に向けた在宅介護の問題、転院、施設入所、経済的な問題など、相談内容は多岐にわたりますが、院内外を問わず、様々な立場、職種の方と協力し問題解決へのお手伝いを致します。そして、公的な社会保障制度だけではなく、萩市の特性、地域性を理解し、支援に活用できるように心掛けております。

患者様やご家族にとってよりよい支援が行えるように、これからもスタッフ一同、様々な業務に取り組んでまいります。ご相談やご質問などがございましたら、どうぞお気軽にお立寄りください。

（図）

【前方支援】（H30年）

- ・紹介患者様の受け入れ 2,423件
- ・救急搬送患者様に関わる
かかりつけ医との連携・連絡 139件
- ・他医療機関への紹介 1,317件
- ・他医療機関からの共同利用の窓口

CT	391件
MR	143件
RI	45件
その他	8件
- ・地域がん公開講座への参加
- ・がん出前講座への参加

病診連携業務

【各種窓口】（H30年）

- ・各医療機関、行政、ケアマネからの問合せ窓口 548件
- ・地域包括ケア病棟利用の窓口

ポストアキュート	35件
サブアキュート	18件
レスパイト	41件
- ・地域連携パス患者の対応 9件
- ・患者サロン“だいたい”事務局 20回開催
- ・地域連携室ニュース発行 年4回
- ・集計業務
- ・文書発送業務

【後方支援】（H30年）

入院時から担当相談員が患者様、ご家族と関わり、多職種と連携をとりながら退院にむけて支援を行います

退院先	自宅	327件
	転院	88件
	施設	26件
	帰院・帰施設	74件

医療福祉相談業務

【各種相談窓口】（H30年）

- ・医療、看護に関する相談
 - ・福祉（介護）に関する相談
 - ・医療安全相談窓口
 - ・患者サポート相談窓口
 - ・がん相談窓口
 - ・認知症相談窓口
 - ・苦情相談窓口
- 総数：6,328件



新入医局員紹介

9月に入局された先生にインタビューしました

① 趣味は？

② 尊敬する先生とその理由

③ 医師になろうと思ったきっかけは？

④ もし医師になっていなければ・・・？



外科
藤原康弘

① ドライブ、おいしいもの（特に肉）を探す

② 坂本和彦先生

学生実習の時からお世話になっています。

実習中に指導していただいた先生の中で最も楽しそうに仕事をしていました。坂本先生を見て消化器外科医、さらには肝臓を専門にしたいと思いました。

③ スポーツをしていて怪我が多かったので整形外科医になりたいと思ってました。

④ 車に関わる仕事をしたかったです。

都志見病院

講演会のお知らせ



『第15回 出前講座in佐々並』開催のお知らせ

出前講座！令和第2弾を「佐々並地区」で開催いたします。
2人に1人はがんにかかるこの時代、がんについて、ためになる
お話をお聞きになりませんか!? 当日は、講演はもちろんのこと、
看護師による血圧測定、がんに関する様々なパンフレットの配
布、患者サロン“だいたい”のご紹介等も行います。

入場は無料!! どなたでもご参加いただけます。皆様のお越し
をお待ちしております。



❖ 日 時: 令和元年 10月19日(土) 10:00~11:30

❖ 場 所: 萩市旭活性化センター(佐々並公民館)農事研修室

❖ テーマ: “がん” について知っておこう



『糖尿病講演会』開催のお知らせ

当院では、11月の全国糖尿病週間に合わせ、毎年、糖尿病
講演会を開催しております。

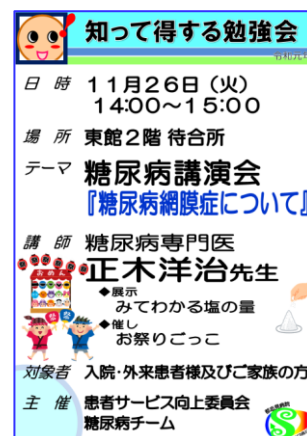
今回は糖尿病専門医、正木洋治医師による「糖尿病網膜症
について」の講演を行います。事前申し込みや参加料は不要です!!
当日は展示や楽しいゲームなども予定しております。ふるってご参
加ください。皆さまの越しをお待ちしております。



❖ 日 時: 令和元年 11月26日(火) 14:00~15:00

❖ 場 所: 都志見病院 東館2階 待合所

❖ テーマ: 糖尿病網膜症について



地域がん公開講座 開催のお知らせ

来年2月に都志見病院主催の公開講座を開催します。参加無料です!!
皆さまお誘いあわせのうえ、ぜひお越しください。お待ちしております。

◇ 日 時: 令和2年2月22日(土) 15:00~17:00

◇ 場 所: 萩市総合福祉センター 多目的ホール

◇ 講 師: 山口大学大学院医学系研究科消化器・腫瘍外科学分野
教授 永野 浩昭 先生





エコー室の超音波装置が新しくなりました!!

この度、エコー(超音波検査)室の超音波診断装置を更新しました。従来の装置と比べ、画像はより鮮明で高画質となり、さらに以下のような新たな機能も搭載しています。

- ①びまん性肝疾患の肝臓の硬さ(肝硬度)を評価するShear Wave Elastography (図1)
- ②心臓の壁運動を解析する2D Wall Motion Tracking (図2)
- ③従来の装置ではとらえられなかった低流速の血流を映像化する
Superb Micro-vascular Imaging(SMI)(図3)

特にShear waveによる肝硬度の測定は、肝生検を行い病理学的に診断される肝線維化ステージと相関すると言われており、肝臓内科からの依頼が増加しています。これらの機能を用いて、臨床に役立つ情報を提供し、診断や治療のサポートをしていきたいと考えています。また、院内ではバッテリーを備えた唯一のエコー装置でもあり、超音波検査室だけでなく、病棟や手術室、救急外来など様々な場所で活用していきたいです。

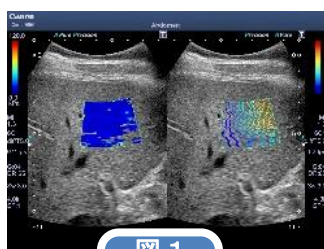


図1

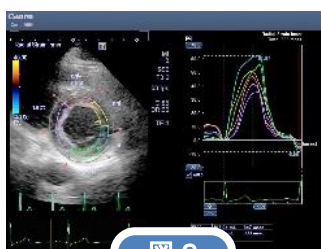


図2



図3



医療機器管理臨床工学技士に認定されました!!

(公社)日本臨床工学技士会の医療機器管理臨床工学技士に認定されました。

認定臨床工学技士制度は、医療機関および在宅医療において、医療機器の運用と管理、および治療を適正かつ安全に施行するために必要な資質を担保するとともに、医療機器の安全運用と保守管理の普及・啓発を目的としており、一定の専門知識と技術をもつ臨床工学技士を評価する指標となる認定制度です。

患者様とスタッフに安心して医療機器を使用できるように管理・提供していけるよう、これからも精進して参ります。



野村知由樹

第66回山口県公衆衛生学会と第65回中国地区公衆衛生学会で発表してきました!!

令和元年7月4日、第66回山口県公衆衛生学会に次の内容の2題を発表しました。

- ①「透析室の危機管理～7年間の災害訓練を振り返って～」松浦由美子
- ②「地域がん診療病院の役割～市民公開講座・出前講座を開催して～」小西 恵

②の演題は県の学会で表彰されました。チームでの今までの活動が評価され継続できて良かったと思います。

次に8月23日に岡山県で第65回中国地区公衆衛生学会が開催され、上記の2名が山口県の代表として口演してきました。災害についての特別講演もあり、演題も中国地区から55題(誌上発表含み)の発表が有り、貴重な経験ができました。今後も、機会を作り学会で発表したいと思います。

(10月・11月も部別の内容の研究を県内で発表します。)

第65回中国地区公衆衛生学会
小西恵(左) 松浦由美子(右)





医療職のたまご から未来へ

～職場体験・1日ナース体験を引き受けました!!～



6月から暑い夏休みの間に、中学校(4校)、高校(4校)の職場体験(市内の中学校より依頼)及び1日ナース体験(山口県看護協会委託事業)を引き受けました。計13名の学生さんが参加されました。1日～2日の実習でしたが、学生さんは見るもの、行うものが初めての経験であり目を輝かせて多くの学びをされました。

将来の職業として医療職に就きたいという人が年々増えています。この職場体験で医療職を理解してもらい、萩の地域医療を担う「金のたまご」になる機会になればうれしいです。見学等でお世話になった該当部署の職員の皆さんのご協力に感謝します。

この行事は毎年行われます。ぜひ、皆さんのご家族やご近所の方で医療職に興味のある方がおられましたら、ご紹介ください!!



配茶



ベッドの
ギャッジアップ



救急蘇生法の研修を行いました!

9月4日(水)当院7階会議室に於いて、主に今年度の新入職員(看護部・薬剤部・検査部・リハビリテーション部・総務)を対象とした救急蘇生法の研修を行いました。当日は、萩市消防本部より現役消防士さん2名を講師に迎え、総数35名の受講となりました。

研修では、救急時にどう対応するのか、AEDの使い方、心臓マッサージの方法などの説明を受け、その後一人づつがモデル人形を使った実践をしました。皆真剣に取り組む、終了後は、「意外と疲れた」「緊急時遭遇した時にはこの経験を活かしたい」などの感想が聞かれました。この研修は来年も行う予定です。新入職員以外の方でも参加したいと思われる方は、ぜひレクチャーを受けてみては!!



医療安全全体研修を行いました!



今回のテーマは『接遇・クレーム対応～納得に導くための心構え～』と題し、(株)セイエル医薬営業本部 顧客支援室の川岡久朗先生よりご講演頂き、279名の職員が参加しました。講師の先生のユーモアを交えた語り口に、終始和やかな雰囲気で開催が進んでいましたが、参加した職員は自分自身の問題として、真剣な表情で講義を聞いておりました。

今回の研修会を機会に、患者様やご家族から当院へ寄せられる貴重なご意見に対し、誠意をもって適切に対応できるよう、職員一同取り組んでいきたいと思っております。

サブゼネラルリスクマネジャー 野村知由樹





患者サービス向上委員会主催

『ミニ運動会開催』



10月1日(火)14:30から東館1階待合室でミニ運動会を開催しました。参加者は、患者様20名、職員・学生18名の計38名!! 赤と白のチームに分かれて、ボールリレー、魚釣り、玉入れの3競技を行い、白熱した戦いの結果、192点と188点、近差で赤チームが勝利しました!!



第14回 出前講座 in 山田 を開催しました

令和元年7月6日(土)午前中、第14回出前講座を白水会館で開催しました。当日は日差しが強く真夏のように暑い日でしたが、39名と多くの方がお越しくださいました。山本副院長の「知得! 納得! がん診療」、続いて兼本管理栄養士の「野菜を食べて免疫力アップ」、そして患者サロン「たいだい」代表の岡野さんから「がん向き合う」と題したお話があり、皆さん暑い中、熱心に聴講されていました。当日、準備に汗をかけたスタッフに、白水会館の管理者の方から冷たい麦茶を頂き、ご配慮に一同感動致しました。地域の皆様、白水会館の管理者の方、本当にありがとうございました。地域に根付いたがんの健康教育の一環として、当院はこれからも出前講座を継続して参ります。ご希望の地区がございましたら優先致します!!是非病院にご連絡下さい。次回は10月19日(土)に佐々並地区で開催します。ふるってのご参加をお待ちしております。



山本副院長



兼本管理栄養士



岡野芳子氏



地域の方と講演会の様子



看護師による血圧測定の様子



萩夏祭りヨイショコショパレード



萩夏祭り「市民総踊り ヨイショコショパレード」に、総勢84名が参加しました。今年は新入職員の方の参加が多く、楽しく参加している笑顔がとても印象的でした。





No.9

膝関節に対するリハビリ効果

前回までは変形性膝関節症に対するセルフケアについてお話させていただきました。今回はリハビリの効果という視点で、お話させていただきます。ご存知の通り、変形性膝関節症とはレントゲン写真にて、文字どおり変形をきたし疼痛を有する病態です。ゆえに、変形を治すには人口膝関節置換術しか方法はありません。当院リハビリでは、fascia(図1筋や筋膜、靱帯などの総称)を徒手的に治療することで、本来あるべく体の回旋要素や重心周囲の柔軟性を取り戻し、重心線と膝関節の距離を小さい歩行環境を提供することで、骨変形を治すことはできませんが、疼痛治療を行なっております(図2)。

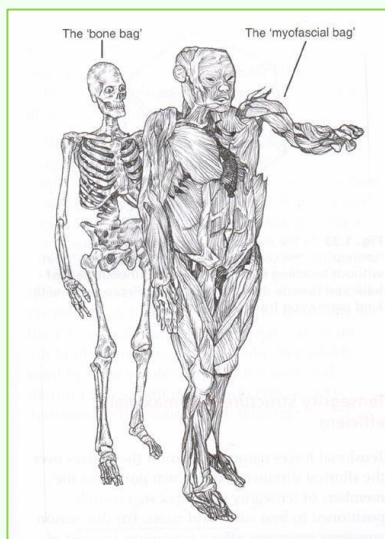


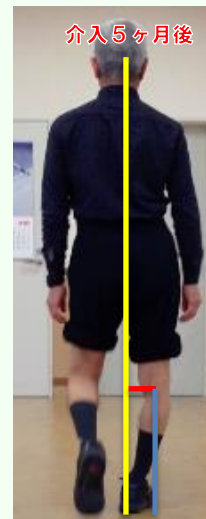
図1 人体(骨とfasciaの関係)



歩行時O脚変形 大
右膝疼痛 NRS:6
連続歩行距離 :100m



歩行時O脚変形 中
右膝疼痛 NRS:3
連続歩行距離 :200m



歩行時O脚変形 小
右膝疼痛 NRS:0
連続歩行距離 :2km

図2 リハビリ効果 重心線と膝関節の距離